

(別紙様式3)

令和2年3月31日

## 研究開発完了報告書

住所	岡山県岡山市北区内山下2-4-6
管理機関名	岡山県教育委員会
代表者名	教育長 鍵本 芳明

令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

### 記

#### 1 事業の実施期間

令和元年5月16日（契約締結日）～ 令和2年3月31日

#### 2 指定校名・類型

学校名	岡山県立岡山城東高等学校
学校長名	前川 隆弘
類 型	グローバル型

#### 3 研究開発名

「ステージは『世界』だ!」～岡山発グローバルリーダーの育成～

#### 4 研究開発概要

学校設定科目「学類コア科目」と総合的な探究の時間「GLOBAL I・II・III」を教科横断的に連動させ、地域と連携して、郷土岡山の地域課題を踏まえ、創造的・批判的思考力を育成しながら、本校の類型である学類の専門性を生かした課題研究に取り組む。並行して、海外研修の充実、留学の促進、海外姉妹校等からの訪問の受け入れや英語教育の改善により、グローバルな視野と多様性の理解、高度な英語運用能力を育成する。また、学類の専門性を生かした地域ニーズに基づくボランティア活動、生徒会活動の活性化により、自主性・自律性を育成する取組を強化し、持続可能な郷土岡山の実現に向けて将来、地域社会を支えたり、国際社会で活躍したりする「岡山発グローバルリーダー」の育成カリキュラムを開発する。

#### 5 教育課程の特例の活用の有無 無

## 6 管理機関の取組・支援実績

### (1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンソーシアム会議の実施		1回					1回					1回
学校での海外交流に関する教育への支援				1回					1回			1回
学校での地域協働学習への支援	2回			1回			1回	1回	1回			1回
運営指導委員会の実施							1回					1回

※3月の会議は、会議資料を郵送して御意見等を伺う形で代替した。

### (2) 実績の説明

#### ①コンソーシアムについて

##### (ア) コンソーシアムの構成団体

機関名	職名	氏名
岡山県	県民生活部中山間・地域振興課活力創出班 総括参事	中山 尚美
	同 副参事	山邊 典生
岡山市	市民協働局市民協働部E S D推進課 課長	小川 卓志
岡山県経済団体連絡協議会	事務局長	神崎 浩二
岡山大学	副理事(企画)	青尾 謙
	UAA (University Admission Administrator)	石井 一郎
岡山県立岡山城東高等学校	校長	前川 隆弘
岡山県教育委員会	岡山県教育庁高校教育課 課長	藤岡 隆幸

##### (イ) 活動日程・活動内容

○平成31年4月 コンソーシアムを組織

○令和元年5月28日(第1回) 第1回会合

- ・学校が本事業に関する研究内容と実施計画について説明した。
- ・コンソーシアム各機関から、本事業に対する支援方法や支援内容について提案がなされた。

(岡山県・岡山市)

- ・地域密着の課題研究に対する支援や自主性・自律性を育成する取組について提案  
自治体を実施しているボランティアの紹介、講演会の協力

(岡山県経済団体連絡協議会)

- ・地域密着の課題研究に関する支援について提案 企業訪問の支援、指標の設定

(岡山大学)

- ・地域密着の課題研究に対する支援や異文化交流の深化について提案

大学教員・大学生の派遣、SDGs の活用、留学生の活用方法の検討

○令和元年 10 月 8 日（第 2 回）第 2 回会合

- ・学校が今年度 10 月までの取組の進捗状況を説明し、成果や課題を示した。
- ・コンソーシアム各機関から、自らが関わった取組の報告や、学校の説明に対して新たな支援等の提案がなされた。

(岡山県・岡山市) 高校生と地域を結ぶ研修会の紹介、外国人との交流場所の紹介  
(岡山県経済団体連絡協議会) 企業訪問の実施を受け改善点等の提案、企業訪問の内容拡充への支援

(岡山大学) 課題研究に係る大学教員等の派遣及び外国人留学生との交流に関する提案

○令和 2 年 3 月 23 日（第 3 回）第 3 回会合（資料郵送による意見聴取で代替）

②カリキュラム開発等専門家又は海外交流アドバイザーについて

(ア) 指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

(海外交流アドバイザーについて)

岡山県教育庁高校教育課指導主事（副参事）森 良恵 氏

- ・県庁職員業務の一環、校内会議への参加、校内事業担当者との打合せ（適宜来校）

岡山県県民生活部国際課国際交流推進員 朴 浣 氏

岡山県県民生活部国際課国際交流員 イーサン・コーン 氏

- ・県庁職員業務の一環、高校教育課を通じて異文化交流の深化に関する指導助言

(イ) 活動日程・活動内容

○令和元年 7 月 16 日 岡山城東高等学校教育改革推進委員会の会議に出席

- ・「課題研究」「カリキュラム開発」「地域連携」「国際交流」「外国語教育推進」の担当教員が、これまでの取組の説明、今後のスケジュールを報告。
- ・令和元年度事業における活動計画について協議、特に「国際交流」「外国語教育推進」に関する教員研修、外国人留学生の交流について指導助言。

○令和元年 12 月 18 日 岡山城東高等学校で実施の「外国人留学生と交流する会」訪問

- ・外国人留学生と交流する会

(対象生徒) 国際教養学類 2 年次生 61 名

(参加留学生) 13 名 (アフガニスタン、ガーナ、韓国、中国、ベトナム等 9 カ国)

(実施内容) 本校生徒と外国人留学生が互いの国の文化や伝統等をプレゼンし、意見交換した。(活動時間は 13:00~15:35)

- ・活動内容について指導・助言

○令和 2 年 3 月 19 日 岡山城東高等学校で実施の教育改革推進会議に参加

- ・今年度の実施状況及び来年度の計画の確認、指導助言

③地域協働学習実施支援員について

(ア) 指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

岡山県教育庁生涯学習課社会教育主事（総括副参事）東川 絵葉 氏

- ・県庁職員業務の一環、高校教育課を通じて地域連携のあり方に関する指導助言

岡山県教育庁高校教育課 指導主事（副参事）森 良恵 氏

・県庁職員業務の一環、校内会議への参加、校内事業担当者との打合せ（適宜来校）

（イ）実施日程・実施内容

- 平成31年4月10日 岡山大学訪問（学校同席） 課題研究に係る打合せ
- 平成31年4月15日 岡山県経済団体連絡協議会訪問（学校同席） 企業訪問の打合せ
- 令和元年7月16日 岡山城東高等学校教育改革推進委員会の会議に出席
  - ・「課題研究」「カリキュラム開発」「地域連携」「国際交流」「外国語教育推進」の担当教員が、これまでの取組の説明、今後のスケジュールを報告。
  - ・令和元年度事業における活動計画について協議、特に「課題研究」「地域連携」に関する企業訪問やフィールドワーク、地域でのボランティアについて指導助言。
- 令和元年10月1日 岡山大学訪問（学校同席） 課題研究に係る打合せ
- 令和元年11月14日 岡山県教育委員会主催「地域と連携した『高校の魅力化』フォーラム」に出席 本校1年次生の研究発表について指導助言
- 令和元年12月22日 文部科学省主催「全国高校生フォーラム」に出席 本校2年次生のポスター発表について指導助言
- 令和2年3月19日 岡山城東高等学校で実施の教育改革推進会議に参加 今年度の実施状況及び来年度の計画の確認、指導助言

④運営指導委員会について

（ア）運営指導委員会の構成員（6名）

所属・職	氏名	主な役割
岡山理科大学・理学部教授	岡本 弥彦	課題研究の手法に関する指導
環太平洋大学・次世代教育学部 国際教育学科学科長	小川 正人	グローバル人材育成に関する指導、 探究学習に関する指導
岡山県経済団体連絡協議会・事務局長	神崎 浩二	産業界が高等学校に求める教育の 在り方に関する知見
山陽新聞社編集局・局次長	国定 啓人	グローバルな社会課題、地域課題に 関する知見
中国学大学・中国短期大学・副学長	杉山 慎策	高度な英語力の育成に関する指導
山陽学園大学・副学長・総合人間学部 教授 一般財団法人林原美術館・館長	谷一 尚	地域文化に関する知見、グローバル 人材育成に関する指導

（イ）活動日程・活動内容

- 令和元年10月8日（第1回） 第1回会合 ※第2回コンソーシアム会議と同日実施
  - ・学校が本事業に関する研究内容を簡単に説明した後、今年度10月までの取組の進捗状況を説明し、成果や課題を示した。
- （運営指導委員からの主な指導助言）
  - ・「GLOBAL I」課題研究の年間計画について指導助言、企業訪問の事前事後の指導方法について提案

- ・学校が実施している様々な取組と育成を目指す資質・能力との関連づけ、成果と課題の分析など整理の仕方について提案

○令和2年3月23日（第2回） 第2回会合（資料郵送による意見聴取で代替）

⑤管理機関における取組について

(ア) 管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について

管理機関は、有識者等で構成する運営指導委員会の設置、指導主事によるカリキュラム開発に関する指導助言、高大連携を活用したカリキュラム開発研究に対する支援、専門性等を考慮した教員配置等の人的な支援などを行った。また、コンソーシアムは、運営会議での事業検討や各コンソーシアムの特色を生かした学びの場の提供などを行った。

(イ) 事業終了後の自走を見据えた取組について

岡山県では、令和元年度、岡山県立学校にコミュニティ・スクールを導入できるように規則改正を行ったところであり、岡山城東高等学校のコンソーシアムをコミュニティ・スクールに移行することの検討も含めて、管理機関とコンソーシアムが連携した、学校の取組支援体制の継続を図るための研究を行っている。

(ウ) 高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

令和元年6月、岡山大学とは本事業に関する連携協定を締結し、取組の強化を図っている。その他のコンソーシアム機関については、まずは課題研究の充実のための取組に関する連携を充実させる体制の在り方を研究している。

7 研究開発の実績

(1) 実施日程 ※3月の（ ）は臨時休業のため取りやめたもの。

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営会議の実施		1回					1回					1回
運営指導委員会							1回					1回
教育改革推進委員会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
GLOBAL I の実施	1回	2回	3回	2回	1回	2回	3回	3回	2回	4回	2回	
GLOBAL I のアンケート（生徒）	1回	1回	1回	1回					1回		1回	
GLOBAL II のアンケート（生徒）				1回					1回		1回	
講演会					1回							
企業訪問				4回	2回					1回		
カリキュラム・マネジメント委員会	1回	1回	1回	1回		1回	1回	1回	1回			1回
スキル学習のアンケート（生徒）		1回	2回	2回								
GPS-Academic（1年次・2年次）									1回			
外国語指導に係る研究授業			2回			1回	1回		1回		2回	
先進校視察							1回	2回			4回	
外国語教科会議	1回	1回	3回	1回		2回	2回	2回	3回	1回	1回	1回

外国人留学生との交流会									1回		1回	
全学類の専門性を生かした社会貢献活動		1回	1回	3回	2回	1回	2回	2回	1回			
生徒会活動や委員会活動の活性化		2回	3回	3回	2回	3回	4回	4回	2回	1回	1回	(1回)

## (2) 実績の説明

### ①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

指定校では、目指す人材像を「グローバルな視点を持ちながら地域に根差し地域社会を支える人材」「郷土や日本への貢献意識を持ちながら、国際社会で活躍する人材」と設定し、持続可能な郷土岡山の実現に向けて、「地域密着の課題研究」「異文化交流の深化」「自主性・自律性を育成する取組」の3つを活動の柱として研究開発に取り組んでいる。

地域課題研究として「総合的な探究の時間(1単位)」において「GLOBAL I」を1年次生全員に実施した。年度の前半にはリサーチスキルの学習を取り入れ、課題研究に必要となる研究手法の基礎を学習した。夏期休業中には企業訪問を実施し、各企業がビジネス上の戦略と関連付けながら地域課題やSDGsにどう取り組んでいるかなどを学習した。9月以降、グループに分かれて、SDGsに関連する研究テーマで課題研究の演習を実施した。2月には課題研究発表会を行い、代表45班が研究成果を発表した。

高度な英語運用能力やグローバルな視野と多様性の理解を育成することを目的としたディスカッションやリスニング、スピーキングを重視した授業改善を行うため、指導者として大学教員を招聘し、校内教員研修をこれまでに7回実施した。また、岡山大学の留学生13名をTAとして年間2回交流会を企画し、生徒が実用的な英語運用能力を活用できる場を設定した。

自主的・自律的な行動力と社会貢献意識の育成するため、これまで学校が独自に行っていたボランティア活動以外のボランティアについても広く生徒に周知し、のべ138名の生徒が参加した。また、学類の専門性を生かした社会貢献活動として、音楽学類の生徒が地域の保育園児を招待し演奏会を行った。

### ②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

「GLOBAL I」：総合的な探究の時間（1単位）

教科横断的なリサーチスキルの学習、県内企業訪問でグローバルな地域課題の学習、SDGsの17のゴールを参考に課題研究の演習を実施

### ③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

- ・数学科と情報科で連携し、リサーチスキル学習で学んだ研究手法を活かして、岡山県主催の統計グラフコンクールに13作品を出品した。
- ・来年度実施の学類コア科目と関連づけて実施する総合的な探究の時間「GLOBAL II」のカリキュラムについて、教育課程委員会を7回開催し、研究した。

- ④地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制  
カリキュラム・マネジメント委員会を設置し教育課程全体をマネジメントするとともに、その下部組織としてカリキュラム・マネジメント小委員会、カリキュラム開発係やグローバル係が各取組の成果等の分析を行った。

(今年度の分析や成果)

2年次の課題研究では、校外でのフィールドワークを推奨したところ半数の班が実施したが、生徒の変容を確認するためにSGH指定校の時から継続して行っている「課題研究に関する調査」の結果では、肯定的な回答の割合が1年次の時と比べ「課題設定能力」の「発展」が56.7%から63.2%に「課題解決力」の「発展」が36.2%から41.9%と前年の結果より高くなっており、来年度以降の取組の参考になった。

- ⑤学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

学校全体で事業に取り組めるように次のとおり校内組織を編成し研究を行っている。

担当内容	主任	係
カリキュラム開発	教務課長補佐	教務課長、指導教諭、学類主任
地域連携	生徒課長	生徒課社会貢献係、学類主任、年次事業担当、地域連携担当
国際交流	国際課長	国際課
外国語教育推進	外国語科研究主任	外国語科、英語科指導教諭
情報発信	総務課長	総務課
記録	図書課長	図書課、進路指導課、事務室
会計	事務室	事務室

- ⑥カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の学校内における位置付けについて

教育改革推進委員会への参加等を通じて本委員会での検討内容への指導助言や研究開発の推進のため、コンソーシアムとの連絡・調整を行った。

- ⑦学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

毎月、コアメンバーが出席する教育改革推進委員会を開催し、事業の進捗状況等について協議している。

(コアメンバー) 校長、副校長、教頭、事務部長、主幹教諭、教務課長、学類主任（人文・社会・理数・国際教養・音楽）、年次主任

(必要に応じて出席するメンバー) カリキュラム開発係主任、地域連携係主任、国際交流係主任、外国語教育推進係主任、情報発信係主任、記録係主任、会計係主任

- ⑧カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

年3回開催されるコンソーシアム運営会議において、コンソーシアム各機関からは学校の説明を踏まえ、取組の精選、今後の事業の進め方や目指す人材の育成に繋がる取組の提案など、カリキュラム開発に係る具体的な活動方法等について知見が得られた。

⑨運営指導委員会等、取組に対する指導助言等に関する専門家からの支援について

課題研究では年2回、岡山大学の教員から生徒の研究内容について指導助言をいただいた。また、企業訪問ではその企業でSDGsに関連する取組等を行っている担当者から、具体的な内容を伺った。さらに、運営指導委員からも会議を通じて専門的な視点でアドバイスをいただいております。今後は生徒の活動等を参観できる機会を増やす。

⑩類型毎の趣旨に応じた取組について

グローバル型の「グローバルな視点を持って地域を支えるリーダーの育成」という点を踏まえ、1年次に実施する課題研究はSDGsの17のゴールに関連するグローバルな社会課題を研究テーマに設定し、研究を実践している。県内企業訪問により、地域の課題と世界の課題を関連づけるなど地域に密着した課題研究の進め方が深化し、グローバルリーダーに求められる資質・能力の育成につながった。また、英語による高度なコミュニケーション能力の育成を重視した指導への改善を目指し、大学教授による教科研修を行い、CAN-DOリストの改訂、コンピテンシーベースのシラバスの開発に向けた研究を実践した。

⑪成果の普及方法・実績について

研究成果や課題について報告する成果報告会2月上旬に実施した（本校教員及び県内の教職員15名が参加）。年度末には研究開発実施報告書を作成し、県内高等学校及び地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）研究指定校全てに送付し成果の普及に努める。また、1月下旬及び2月中旬には県内SGH校の課題研究発表会において生徒代表がプレゼンを行うとともに、2月上旬の本校課題研究発表会では、各年次の代表計45班が研究成果をプレゼン発表した。本事業に関する生徒の取組は随時ホームページに掲載し周知した。

## 8 目標の進捗状況、成果、評価

### (1) 地域密着の課題研究・GLOBAL I・II

今年度は、1年次「GLOBAL□」において、年度当初の計画通り、年度の前半にはリサーチスキル学習を、後半ではSDGsに関連する研究を実施できた。リサーチスキル学習の授業アンケートでは、後半に取り組む課題研究への意欲を尋ねたところ、「楽しみである」の割合が1回目26%、2回目33%、3回目35%、4回目37%、5回目38%と増加し、リサーチスキルを学んだことで意欲が増加したと考えられ、SGHからの改善による成果の1つと分析している。生徒のモチベーションを高める効果もあったことから、必要なリサーチスキルを学ばせてから、課題研究に取り組む流れのカリキュラムを構築できたことは意義が大きい。

コンソーシアムとの連携の1つとして8月に、岡山県県民生活部中山間・地域振興課活力創出班による「本県の抱える森林・農地の荒廃や貴重な伝統文化の衰廃」という地域課題についての講演を行った。多くの生徒が地域課題を身近に考えるようになり、年度後半に行う課題研究のテーマ設定の際、役立った。また、講演後の生徒アンケートでは「講演を聴いて地域貢献への興味が深まったり、地域貢献をしたくなったりしましたか」という項目で90%の生徒が肯定的な回答をした。夏期休業中に1年次全員対象の県内企業訪問を実施したが、生徒アンケートでは「グローバル企業として世界的に展開し、その国の発展等



に大きく貢献していることを理解した。」「個々の法人が取り組んでいるSDGsに関連する事業を学習することで、世界的な課題を身近に感じることができた。」とあり、グローバルな課題を自らに引き寄せ感じ取れるようになった様子が見られた。地域密着の課題研究を通じ、1年次生にリサーチスキルは身に付いたが、創造的思考力や批判的思考力については、年度後半に実施した課題研究の中で育成に努めてきた。12月に実施したGPS-Academic調査の結果からは、創造的思考力及び批判的思考力の上位評価（S及びA）の割合がそれぞれ47%、40%であった。この結果は昨年度1年次生の結果よりも6%高く、年度前半に各教科がSDGsをもとにリサーチスキル学習を行い、後半に課題研究を行ったことが良い結果に繋がったと分析している。

また、全46班中13班が地域課題をテーマに課題研究を実施した。商店街の現状把握のための街頭インタビューや「こども食堂」での聞き取り調査といったフィールドワークを全体の28%が実施するなど、過去の1年次生より高い実施状況であった。「将来、地元で暮らしたいか」という質問に肯定的な回答をした生徒の割合は45%と昨年度の調査結果より15%増加した。

そして、先行研究として2年次生に実施した「GLOBAL II」では、水曜日の6限、7限及び放課後を積極的に利用して校外でのフィールドワークを推奨したところ、校外でアンケートや、聞き取り調査をした班が全60班中30班であった。また、12月に実施したGPS-Academic調査の結果でも、批判的思考力の上位評価（S及びA）の割合が45%であり、昨年度の結果より11%上回っていた。

## (2) 異文化交流の深化

英語教育の改善として公開授業を3回計画していたが、1回目を校内での研究授業としたため今年度は10月7日、12月20日の2回実施した。それに加え、6月、9月、2月には校内授業参観を実施し、授業改善に取り組んだ。例えばスピーキング指導については、コミュニケーション英語I・IIにおいて、本文の内容のまとめをライティングとスピーキングで行ったり、1年次では、ALTとの協同授業でプレゼンテーションやディベートを取り入れ、2年次では、週1時間を音読のチェックに充てた。こうした工夫により、生徒は外部試験や英語で問われ英語で答える授業にも積極的に取り組んでいる。CAN-DOリストに関しては、新学習指導要領を踏まえ改訂に取りかかっておりスピーキング力向上の為の授業内容の改善を反映させ、来年度からの運用を予定している。

また、海外修学研修の改善として、現地の高校生との交流機会や異文化理解につながる海外フィールドワークの回数を増加するなど研修内容の見直し等を行いながら、来年度から単位認定が行えるようなプログラム案を整備した。

留学・国際交流の推進として海外文化研修や学類研修は、現地の人々と直接意見交換をすることで、多様な考えや価値観に触れることができ、グローバルな視野が広がり、英語学習の必要性を理解し前向きに取り組むようになった生徒が多くいる。さらに岡山大学外国人留学生との交流会を経て、留学生の出身国の言語や文化、価値観に触れ、多様性への理解が深まり、英語によるコミュニケーション力の更なる向上を目指す生徒が増え、授業でも積極性が出てくるなど、スピーキング力やライティング力を競う各種コンテストでの優勝や英語ディベート大会全国大会出場等の成果につながっている。

当初、3月には海外修学研修が予定されており、参加する生徒も事前学習にしっかり

取り組んでいたが、新型コロナウイルスの影響から中止という残念な結果となった。

【各種コンテスト等の主な結果】

- ・第13回岡山県高等学校英語スピーチコンテスト優勝及び入賞（2年次生各1名）
- ・第22回ノートルダムトロフィー・English Speech Contest 優勝（2年次生）
- ・第36回高松大学・高松短期大学近県高等学校英語弁論大会スピーチの部優勝（1年次生）
- ・第8回岡山県高校生英語ディベート大会優勝及び全国大会出場（1年次生2名、2年次生8名）
- ・第8回岡山県高校生英語ディベート大会ベストディベーター賞（2年次生）
- ・第14回岡山県高校生英語レターコンテスト最優秀賞（1年次生）

【CEFR 別人数割合(%) (GTEC4 技能検定による)】

	C1	B2	B1	A2
1年次	0.0%	1.8%	8.8%	89.4%
2年次	0.6%	0.3%	25.9%	73.2%
3年次	0.6%	2.0%	33.8%	63.6%
合計	0.4%	1.2%	23.3%	75.1%

(3) 自主性・自律性を育成する取組

社会貢献活動の活性化については、校内に生徒周知用のボランティア・インフォメーションボードを設置して本校以外の各団体が主催する一般ボランティア募集を行ったところ、一般ボランティアへ参加した1・2年次生のうち56%がこのインフォメーションボードを活用していた。また、機会があれば本校主催ボランティア以外に一般ボランティアへ参加したい1・2年次生は54%と、半数近くが興味を持っていることが分かった。今年度、社会貢献活動・ボランティアへ参加した生徒の89%が参加して良かったと回答しており、自由記述の中にも「もっとボランティアに携わるべき」と前向きな意見が多く、生徒の社会貢献活動・ボランティアに対する意識と意欲を高められたと評価している。一方で、学類の専門性を生かしたボランティアへ参加できた生徒は16%と低かったため、生徒にも参画させて学類の専門性を生かしたボランティアの開発を進めたい。

生徒会活動に関しては、学校生活を考えるため、各種委員会の代表や1～3年次各クラスの評議員が議論を交わす「代表委員会」という会を生徒自らが設置し、話し合う機会を持った。今年度は3回開催し、「制服の着こなし方」や「ゴミ箱設置の有無」といった校内で課題になっていることについて議論を行った。評議員はクラスでアンケートを実施したり、クラス単位で意見をまとめたりして「代表委員会」にクラスの意見や考えを持ち寄り、学校全体での議論となるよう自分たちで工夫して実施している。こうした会を開催することで批判的思考のもと、現状を振り返り改善点や生徒が取り組むべきことを考えさせることができた。

## 9 次年度以降の課題及び改善点

### (1) 地域密着の課題研究・GLOBAL I・II

今年度「GLOBAL I」は1単位で実施したが、リサーチスキルを十分定着させるには、時間不足だったので、来年度は年度当初の宿泊研修で時間を確保し、関連付けて実施する。

また、次年度は「GLOBAL III」のシラバス、評価方法を作成するため、今年度「GLOBAL I」及び先行研究で実施した「GLOBAL II」で行った活動を精査し、学類特有の科目「学類コア科目」の特性を活かして、3年次でいかに深化させることができるか検討する。また、次年度の「GLOBAL I」「GLOBAL II」のカリキュラム・マネジメントのエビデンスの一つであり、引き続き PDCA サイクルを回しながら生徒の資質・能力の向上に取り組んでいく。さらにポートフォリオを充実させることにより、生徒をより多面的に把握し、生徒の変容を可視化できるので、それを実現するための環境もある程度整いつつある。

企業訪問については、今年度は夏期休業中にクラス単位で実施したが、研究テーマとの関連が弱い企業を訪問する生徒もいたので、来年度は生徒に訪問先を選択させ、学年全体で一斉に実施する方式を計画している。

### (2) 異文化交流の深化

新学習指導要領を踏まえ、改めて本校における3年間で目指すべき目標を明確化し、英語担当教員全員が共有する必要がある。大学教授から定期的に助言をいただき、目標を設定している段階であり、まずは次年度の授業計画に落とし込む必要がある。その目標設定を踏まえ、引き続き CAN-DO リストの改訂、コンピテンシーベースのシラバスの開発にも着手する。公開・研究授業をより積極的に行い、そこで得られる知見をシラバス、CAN-DO リストに反映させる。これらの授業改善の中で、高度な英語運用能力の育成に繋がるスピーキングを中心とした言語活動、評価の手法を蓄積する。

来年度も多様性への理解が一層深まるよう、海外文化体験、海外学類研修及び海外修学研修を実施する予定である。これらの研修の中で日本の伝統文化を英語で紹介したり、海外の高校生と交流する経験をしている。留学生の受け入れも同様で、多様な経験が授業で培った英語力を試したり、更なる学習へのきっかけになっており、海外での研修についてもフィールドワークや交流機会の拡大といった改善を行う。

### (3) 自主性・自律性を育成する取組

社会貢献活動では、決められたボランティア活動へ参加させることがあったので、生徒による本校の学類の専門性を生かしたボランティア活動の参画ができるように支援する。生徒会活動に関しては、校内での活動にとどまっているので、コンソーシアム機関である岡山県や岡山市の支援を得て、地域との関わりを深められる活動を展開したい。

#### 【担当者】

担当課	岡山県教育庁高校教育課指導班	TEL	086-226-7585
氏名	森 良恵	FAX	086-224-2535
職名	指導主事(副参事)	e-mail	sido-koukou@pref.okayama.lg.jp

